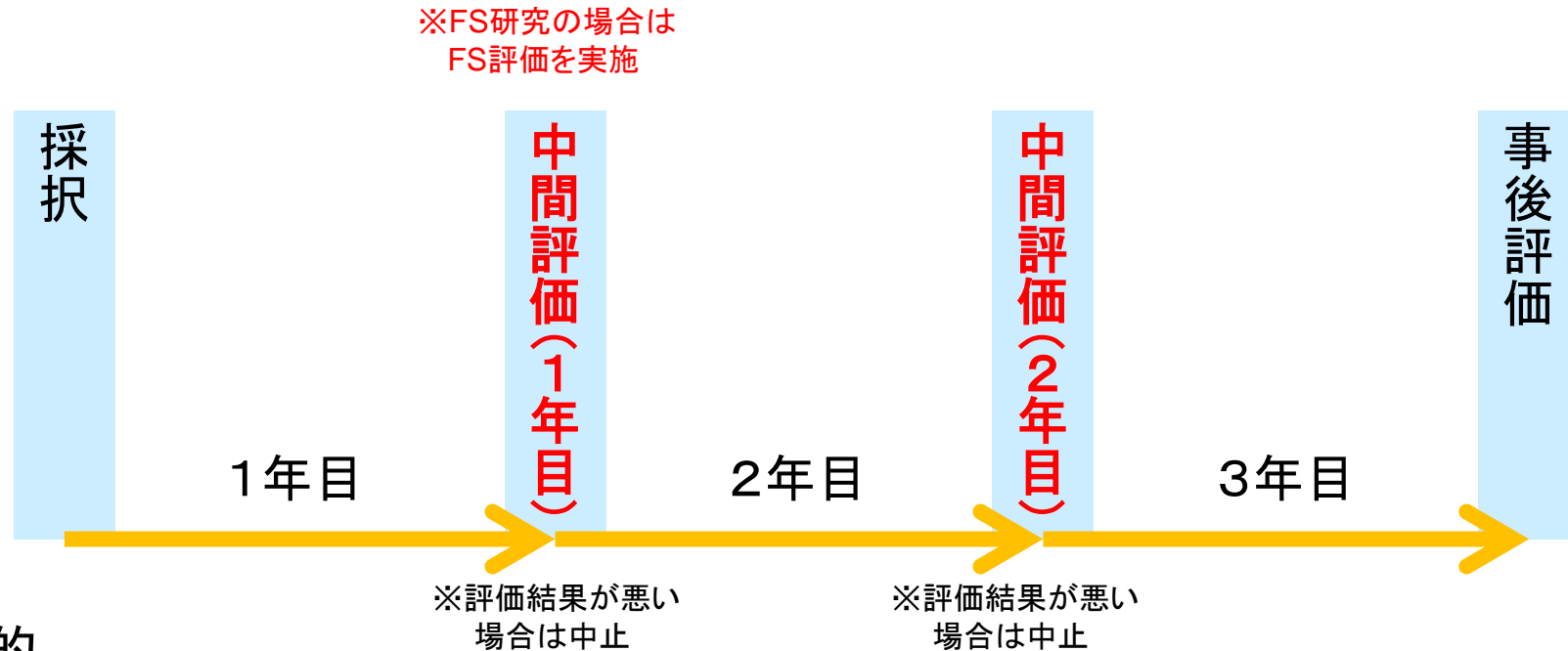


令和4年度継続課題の中間評価・
実行可能性調査(FS)評価の実施方針案について
(概要)

中間評価・FS評価の位置付け及び目的

■ 位置付け

採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



■ 目的

中間評価	FS評価
研究の見通しや進捗を評価し、以下を図る。 <ul style="list-style-type: none">・ 研究の適切な実施・ 次年度以降の研究費の適正化	<ul style="list-style-type: none">・ 期待する研究成果が得られるかどうかを評価・ 新規課題として採択するかどうかを決定

中間・FS評価の手順(スケジュール)(案)

① 研究状況報告書の作成

(9月上旬～12月下旬)



① 書類の事前査読(書面による評価)

(～1月下旬)

- ・ 事前査読を実施(事前査読結果の提出は任意)
- ・ 委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡。



② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価)

(2月上旬頃)

- ・ 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告10分、質疑10分。4～5時間程度)
- ・ 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間・FS評価シートを作成。
- ・ 各委員からの中間・FS評価シートを基に、中間・FS評価(案)を作成するための審議を実施。



③ 中間・FS評価(案)の作成

(～2月中旬)

研究評価会后、分科会長は中間・FS評価(案)を作成。



④ 中間・FS評価の決定

(2月下旬頃)

新道路技術会議において中間・FS評価(案)を審議し、合議により中間・FS評価を決定。



⑤ 中間・FS評価結果の通知及び公表

(3月上旬頃)

- ・ 研究代表者に書面にて通知
- ・ 道路局ホームページ等において、研究状況報告書、研究概要と併せて公表

中間評価の視点及び基準(案)

■ 評価の視点

1年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の見通し	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

2年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

■ 評価の基準

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上、推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

FS評価の視点及び基準(案)

■ 評価の視点

FS評価の視点	説明
FS研究による研究成果の見通し	FS研究により、計画通りの研究成果が期待できるものとなっているか。
FS研究結果を踏まえた研究計画の妥当性	FS研究結果を踏まえた研究計画が妥当なものとなっているか。

■ 評価の基準

評 点	区 分	説 明
A	新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。 よって、次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B	新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するものの、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。 次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D	不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

令和4年度中間・FS評価 対象研究テーマ及び担当委員(ソフト分科会) (案)

No.	研究期間	委託研究テーマ	研究代表者	タイプ	テーマ	評価分科会	
						分科会	委員
①	R2(FS)-R5	車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発	大阪市立大学大学院 准教授 吉田 長裕	I	3	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト分科会委員 ・道路局担当行政官 ・国総研担当研究官
②	R3-R5	特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発	立命館大学 准教授 塩見 康博	IV	-		
③	R3-R5	カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発	東京理科大学 講師 柳沼 秀樹	IV	-		
④	R3-R5	高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発	岐阜大学 教授 倉内 文孝	I	3		
⑤	R4-R6	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	IV	-		
⑥	R4-R5	権利と効率のストック効果に基づく社会的意思決定方法と実用的なストック効果計測手法の開発	神戸大学大学院 教授 小池 淳司	IV	-		

令和4年度中間・FS評価 対象研究テーマ及び担当委員(ハード分科会) (案)

No.	研究期間	委託研究テーマ (※はFS研究を示す)	研究代表者	タイプ	テーマ	評価分科会	
						分科会	委員
①	R2(FS)-R5	走行中の電気自動車に連続的に無線給電を行う道路の実用化システムの開発	大成建設 栄誉研究員 新藤 竹文	IV	-	ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード分科会委員 ・道路局担当行政官 ・国総研担当研究官
②	R2(FS)-R5	走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究	東京理科大学 准教授 居村 岳広	IV	-		
③	R3(FS)-R6	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城一郎	I	4		
④	R4-R5	統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発	大阪大学 准教授 貝戸 清之	IV	-		
⑤	R4-R5	ICTと商用車プローブデータを活用したAIによる道路維持管理システム	長崎大学 教授 松田 浩	IV	-		
⑥	R4(FS)	再生可能な水素を併産するバイオマスベースの舗装材に関する技術研究開発※	東京都市大学 准教授 高津 淑人	FS	-		
⑦	R4(FS)	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用※	岐阜大学 教授 國枝 稔	FS	2		

【参考】ソフト研究評価会（中間・FS評価）評価担当研究テーマ（1／2）

No.	タイプ	研究期間	研究課題名とその概要		研究代表者	中間・FS 評価結果
2020-5	I	R2(FS) -R5 (予定)	課題名	車道基本の自転車通行環境整備による交通事故特性と新たな道路交通安全改善策に関する研究開発	大阪市立大学 大学院 准教授 吉田 長裕	B (R3中間)
			概要	自転車の車道走行と広域化に伴う事故特性を把握し、自動車・自転車のコンフリクトを再現する仮想道路空間実験による科学的知見に基づき、新たな道路交通安全改善策とともに持続可能な安全の段階的向上策を提案する。		
2021-1	IV	R3-R5 (予定)	課題名	特殊車両の折進可否判定の自動化と特車フリー道路ネットワーク計画手法の研究開発	立命館大学 准教授 塩見 康博	A (R3中間)
			概要	衛星画像データ等に基づいて交差点平面図を生成する手法や、特車の折進可否と通行条件判定、走行軌跡生成を自動化する手法を開発すると共に、速達性や頑健性等の指標に基づく特車フリー道路ネットワーク計画手法を構築する。		
2021-2	IV	R3-R5 (予定)	課題名	カメラ画像および複数の観測データを融合した次世代交通計測手法に関する研究開発	東京理科大学 講師 柳沼 秀樹	B (R3中間)
			概要	道路ネットワーク上の常時観測データを取得可能とする次世代型交通計測システムの構築を目指し、AI 解析、カメラ画像を活用した交通移動体の高精度検知手法、複数の交通データを融合した交通量等計測データ生成・補正手法の開発に取り組むことを目的とする。		
2021-3	I	R3-R5 (予定)	課題名	高速道路における Proactive 型交通マネジメント方策についての研究開発	岐阜大学 教授 倉内 文孝	A (R3中間)
			概要	本研究は、AI 技術を活用した交通状況ナウキャストをトリガーとし、ゲーミフィケーションによる行動変容提案のデザインアルゴリズムを構築し、チャットボットを通じて走行中に安全に行動変容提案をする Proactive 型交通マネジメント方策を開発するものである。		
2022-1	IV	R4-R6 (予定)	課題名	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	
			概要	我が国の道路事業を対象に、事業評価手法の改善を目指し、時間価値等の原単位の設定手法および交通量推計の手法について検討し、我が国の事情に見合った新たな事業評価手法の提案を行うことを目的とする。		

【参考】ソフト研究評価会（中間・FS評価）評価担当研究テーマ（2／2）

2022-2	IV	R4-R5 (予定)	課題名	権利と効率のストック効果に基づく社会的意思決定方法と実用的なストック効果計測手法の開発	神戸大学大学院 教授 小池 淳司	
			概要	権利と効率のストック効果に基づく道路事業の社会的意思決定方法および道路事業が有する多面的な機能の評価のための実用的なストック効果計測手法の開発を行う。		

【参考】研究継続の妥当性評価＜中間評価＞

A：現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B：現行のとおり推進（指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C：研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D：中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【参考】研究継続の妥当性評価＜実行可能性調査（FS）評価＞

A：新規課題として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
B：新規課題として採択（指摘事項有り）	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
D：不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【参考】ハード研究評価会(中間・FS評価) 評価担当研究テーマ(1/2)

No.	タイプ	研究期間	研究課題名とその概要		研究代表者	中間・FS 評価結果
2020-6	IV	R2(FS)-R5 (予定)	課題名	走行中の電気自動車に連続的に無線給電を行う道路の実用化システムの開発	大成建設 栄養研究員 新藤 竹文	A (R3中間)
			概要	本研究では、高効率で汎用性に優れた無線給電を行う道路システムを実現するために、電界結合方式無線給電技術における給電効率や電気自動車への給電制御、舗装の強度や耐久性、修復・更新方法などの実用化技術を開発する。		
2020-7	IV	R2(FS)-R5 (予定)	課題名	走行中ワイヤレス給電のコイル埋設についての研究	東京理科大学 准教授 居村 岳広	A (R3中間)
			概要	走行中充電における道路側コイルの電気的特性と機械的強度向上させた上で、アスファルトへの埋込み技術確立を目的とする。電気的特性(効率・電力など)と機械的特性(耐久性など)を従来コイルと比較し、経年劣化の評価を行い、埋込み深さの最適化、低コストコイル等の可能性を示す。		
2021-6	I	R3(FS)-R6 (予定)	課題名	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城 一郎	A (R3FS)
			概要	本研究は、設計供用期間 100 年を満足する舗装の実現を目指し、高度な実験と解析を駆使したデータ同化による性能評価に基づき、フライアッシュを利活用した高耐久コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。		
2022-3	IV	R4-R5 (予定)	課題名	統計的アセットマネジメント手法に基づくバックキャスト型道路政策の深化についての技術研究開発	大阪大学 准教授 貝戸 清之	
			概要	応募者等が開発したアセットマネジメントを高度化させ、アセットマネジメントと1) 劣化属性情報、2) EBPM、3) リスクマネジメントとの融合により、それぞれバックキャスト型道路政策を支援・深化させるための方法論を開発する。		
2022-4	IV	R4-R5 (予定)	課題名	ICT と商用車プローブデータを活用した AI による道路維持管理システム	長崎大学 教授 松田 浩	
			概要	道路点検にスマートフォン、ドライブレコーダー及び商用車プローブデータを活用し、高い品質と維持管理の効率化・高度化を図るとともに、路面劣化メカニズムを過去の点検データや道路台帳、交通量など様々な因子から分析し、AI を活用して次世代型維持管理計画策定手法を開発する。		

【参考】ハード研究評価会(中間・FS評価) 評価担当研究テーマ(2/2)

2022-5	FS	R4(FS)	課題名	再生可能な水素を併産するバイオマスベースの舗装材に関する技術研究開発	東京都市大学 准教授 高津 淑人	
			概要	石油アスファルトをバイオマス発電副生タールで置き換えることを目指して、当該タールの改質技術を開発し、改質タールから成る舗装材を試作・評価する。併せて、タール改質の副生物を再生可能な水素の製造にリサイクルすることを研究する。		
2022-6	FS	R4(FS)	課題名	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用	岐阜大学 教授 國枝 稔	
			概要	自動車産業、航空機産業、洋上風力発電事業などで用いられる炭素繊維(CFRP)から取り出されたリサイクル炭素繊維を用い、コンクリート構造物の補修に用いる補強材を開発する。		

【参考】研究継続の妥当性評価<中間評価>

A：現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B：現行のとおり推進（指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C：研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D：中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【参考】研究継続の妥当性評価<実行可能性調査（FS）評価>

A：新規課題として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
B：新規課題として採択（指摘事項有り）	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
D：不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。